

第10章 附属図書館

第1節 附属図書館

2012年（平成24）度補正予算により旧館部分の耐震改修工事が行われ、2014年（平成26）度にリニューアルオープンした。改修により、バリアフリー化、身障者用エレベーターの移設や階段の拡幅など安全性に配慮した環境を実現した。ラーニング・コモンズの大幅な拡充、学習デスクの更新、集密書架導入による収蔵能力向上（約10万冊）、統一性の取れた案内表示の導入、書庫の全面開架方式へ変更、閲覧及び参考調査カウンターの1階玄関付近への統合など利便性も大幅に向上させることが出来た。（資料編附属図書館資料1、405頁）。



写真1 附属図書館リニューアルオープニングセレモニー（2014.10）

学術情報基盤の整備では、2015年（平成27）度～2019年（平成31）度の5年間で、グローバル、地域志向型及びイノベーション創出人材育成など教育研究支援資料の整備・充実を重点的に進めた。また、電子機器の進化に対応し、電子ブックを2015年（平成27）度から導入し、現在4,150タイトルを提供している。学術雑誌も、利用形態が冊子から電子ジャーナルへと大きく変化する中で「Science Direct」、「Springer Link」、「Wiley Online Library」などのパッケージ型を中心に2018年（平成30）度は、約7,000タイトルを（資料編附属図書館資料2～3、405頁）、二次情報DBも「Web of Science」など主要なDBを提供している。電子リソースは毎年価格上昇が続いているが、全学共通経費等により継続を維持している。

図書館情報システムは、2011年（平成23）度と2015年（平成27）度に更新し、PCサテライト端末増設（30→50台）や「My Library」機

能の追加により、ネットワークを経由した図書の予約・更新、グループラーニングルーム利用予約などを実現した。2017年（平成29）度、弘前大学学術情報リポジトリを国立情報学研究所（NII）ジャイロクラウドへ移行し、災害等でも利用環境の継続性を維持する体制を整えた。

図書館組織は、2013年（平成25）度から、研究推進部学術情報課に名称変更した。2016年（平成28）度から、附属図書館事務長及び5グループ体制となった。

読書推進の取り組みとして、2005年（平成17）度～2012年（平成24）度に「弘前大学学生『言語力』大賞コンテスト」を実施した。後継事業として2015年（平成27）度から資料をわかりやすく推薦する「POPコンテスト」を、2017年（平成29）度からは学生が選書する企画「Book Hunting」を実施し、選書された図書の平均貸出冊数が高めで推移している。また、2017年（平成29）度から、他部局で開催される学術講演会とのタイアップを図り、講演者の関連資料の企画展示を行うことで、所蔵資料の活用を図り利用促進に繋げることが出来た。

学生の学習スタイルが大きく変わってアクティブ・ラーニングによる教育が進められており、図書館ではラーニング・コモンズの整備充実など「場（空間）の提供と活用」を重要な課題として取り組みを強化した。2015年（平成27）度は「ラウンジトーク」を開催（資料編附属図書館資料5、406頁）、後継事業として2016年（平成28）度は「ライブラリカフェ」を開催した（資料編附属図書館資料6、407頁）。また、2018年（平成30）度は教員にコミュニケーションの場を提供し、教育・学習や研究を通じた知の創造を促す取り組み「研究交流カフェ」（月1回）を研究推進部と連携し開催した。コモンズ認知向上への取り組みにより、利用者は毎年増加している。また、広報の強化の一環として、2016年（平成28）度からSNSの公式アカウントとして、附属図書館ブログとtwitterを開始した。

地域貢献の取り組みとして、資料の破損・劣化等防止のため利用制限を設けている貴重資料等を、全国の研究者からの閲覧要望に応じて、デジタルアーカイブ化して、HP上に公開を開始した（資料編附属図書館

資料7、407頁)。

また、本学の学術資源を、国立歴史民俗博物館や弘前市立郷土文学館（加藤謙一関係資料）など他機関からの提供要請にも積極的に応え、展示等を通じた地域貢献も推進した。

寄附金への取り組みとして、2015年（平成27）度から、図書館資料整備のためにサンライズ産業（株）から、毎年100万円（以降10年間継続予定）の寄附をいただき、課題解決や地域のリーダー育成に役立つ資料及び「サンライズ産業（株）寄贈図書・雑誌コーナー」を整備した。また、2017年（平成29）度から「古本募金」回収ボックスを設置した。附属図書館は、大学の教育研究にとって必要不可欠な知の拠点として、学術情報の集積という、従来の役目はもとより、今後は、地域に開かれた知の交錯する場所という機能がより重要な役割となると考える。

（工藤弘文）

第2節 医学部分館

1. 医学部分館の改修と医学部分館・保健学科分室の統合

医学研究科総合研究棟の第III期改修工事に伴い、2008年（平成20）度から2009年（平成21）度にかけて、医学部分館の改修工事が行われた。工事に合わせて、第一期中期目標・中期計画にも掲げられていた、保健学科分室と医学部分館の統合が行われることとなり、保健学科分室は2009年（平成21）5月をもって閉室となった。

改修工事中の2008年（平成20）8月～2009年（平成21）5月は、総合研究棟地下の仮移転場所にて限定的にサービスを行った。そして2009年（平成21）5月18日、医学部分館はリニューアルオープンした。

統合にあたり、実質的に保健学科分室分のスペースが減となるため、蔵書の整理を行った。保健学科分室内の過去15年以内に受入した図書を分館に移し、医学部分館の比較的古い図書と入れ替えた。また、重複していた図書・雑誌を廃棄処分した。こうして、リニューアル後の医学部

分館に、利用が多く見込まれる資料の集約を行った。旧保健学科分室は一部を閉架書庫の扱いとし、それ以外は学生の自修スペースとなった。

また、サービス向上のため、以下のことを行った。改修工事前の医学部分館の閲覧席数は74席であったが、保健学科分室の閲覧席数であった45席分を追加し、119席とした。書庫の5層を保健学科用資料の専用スペースとし、保健学科分室より移動した資料を配架した。医学部分館に未設置であったブックディテクションシステムを、保健学科分室から移設し、館内への荷物持込を可能にした。利用細則を改訂し、医学部分館と保健学科分室とで異なっていた貸出条件等を整理した。

2. サービスの充実と施設整備

2010年（平成22）度、改修以前は分館内に設置していた「松木文庫」を、臨床研究棟地下1階に移転した。6月29日に新「松木文庫」オープン記念セレモニーが開催され、松木明知名誉教授による記念講演が行われた。

2014年（平成26）4月より、学生の声を反映して、それまで20時までであった授業期平日の開館時間を、22時まで延長した。また、1階にノートパソコン等に利用可能な電源が使えるスペースを作り、学生の利便性向上を図った。

（齋藤香織）